

ムササビの母親は、日中は爆睡しながら授乳するというスタイルで子育てをしています。子は母乳だけで育ちますが、母親は食事に出なくては生きていけないし、授乳もできなくなります。そこで、夜間の一定時間、「夕食」の為に外出します。ここまでの観察では、毎晩決まって2回の「外出」があります。1回目は19時過ぎに巣を出て、1時間～1時間半ほどで帰巣、2回目は0時前後に巣を出て、2～3時間で帰巣しています。

巣から出ていく方法は2種類あることもわかりました。一つは、巣（巣箱）の屋根に上って、そこから巣箱のかかっている木の幹を登る方法です。この方法は稀で、10回に1回ぐらいしか見られません。もう一つは、巣箱口から直接別の木の幹に飛ぶ方法。ここまでの観察では、ほとんどの日はこの方法で巣から飛び立っています。飛び立ったあとも、決して地面に降りることはありません。別の木の幹に飛び移って、高いところまでよじ登り、また飛ぶという繰り返りで、移動するのです。

ムササビのメスは1ヘクタール程度の「なわばり」を持ちます。その中で、主として木々の葉や種子を食します。今の時期はカエデ類の新芽や若葉を好むようです。松ぼっくりも好み、森の中には芯だけになった松ぼっくり（通称「エビフライ」）がよく落ちています。動画では巣箱口に出てきた母親が、周囲を警戒しつつ狙いを定めて、一瞬で飛んでいく様子が映っています。

(2024年4月中旬／北軽井沢／遠隔観測)

